

令和7年度 第3回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和7年12月22日（月） 13：30～14：45

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：8名

伊良波 史朗(県立南部医療センター・こども医療センター 放射線科)、北村 紗希子(琉球大学病院 第二内科)、喜納 綾乃(琉球大学病院 看護部)、古波津 万里子(沖縄県保健医療介護部 健康長寿課)、徳元 亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、浜田 聡(琉球大学病院 小児科)、増田 昌人(琉球大学病院 がんセンター)、屋宜 孟(県立南部医療センター・こども医療センター 小児血液・腫瘍内科)、

欠 席：10名

大畑 尚子(県立中部病院 産科)、親富祖 しのぶ(県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)、金城 敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、呉屋 光広(県立森川特別支援学校)、當銘 保則(琉球大学病院 病院整形外科)、遠越 学(沖縄県教育庁 保健体育課)、林絹子(県立中部病院 腫瘍・血液内科)、比嘉 猛(県立南部医療センター・こども医療センター 小児科)、宮平 有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、銘苅 桂子(琉球大学病院 周産母子センター)

陪 席 者：2名

平敷 千晶(琉球大学病院 産婦人科)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター)

【報告事項】

1. 令和7年度 第2回小児・AYA部会 議事要旨(9月3日)

資料1のとおり確認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

資料3のとおり確認された。

3. 令和7年度 第1回沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 議事要旨(12月4日)

陪席の平敷委員より報告があり、資料2のとおり確認された。

カウンセリングシートが更新されているので、新しいバージョンを使用していただけるとお願いしたい、とのことだった。その中から、化学療法や放射線治療の内容は、助成金申請書類と同じ内容になっているので、書類作成のためにも、カウンセリングシートを記載していただくと少し負担が減ることになるようだった。主な課題や今後の検討事項としては、以下のとおり。

- ・外来受診時におけるカウンセリング料金について
- ・凍結した卵子や精子等の保管のためのキャパシティの問題

(他院で治療を行っている場合、患者さんの状況確認が困難。保管継続の手続きが年 1 回ということで、手続きを失念されたり、患者さんや家族と連絡が取れないことがある。)

4. 沖縄県がん・生殖医療ネットワーク 委員一覧

資料 4 のとおり確認された。

5. 病棟における学齢期入院患者への Wi-Fi 無料開放について

資料 5 に基づき、浜田委員より報告があった。現在、学齢期のがん患者の学習のための Wi-Fi 無料化に向け、琉大の担当部署のほうで調整を進めている。今年度開催される部会や協議会等で、進捗を報告する予定である。

6. 沖縄県における医療機関の集約化と分散化について

(1) これまでの決定事項について

(2) がん種ごとの選定条件 (小児がん・AYA 世代のがん)

資料 6-1 と 6-2 に基づき、増田委員より、がん診療連携協議会での決定事項について報告され、小児がんと AYA 世代のがんの選定要件について、読み合わせを行った。

AYA 世代のがんについては、次回の選定要件改定時には、多職種からなる AYA 世代支援チームを設置していることを検討する。

7. 「がん教育外部講師研修会」の開催報告について

(報告者の徳元委員の次の予定があり、順番を変更して会議冒頭に報告された。)

資料 7 に基づき、徳元委員より報告があった。研修会の内容について、参加者からは、概ね好評をいただいたようで、今後も継続的な研修開催、学校との連携を進めていきたいとのことだった。

(浜田委員) 現在の外部講師の充足率はどのようになっているか。

(徳元委員) 学校から依頼があった際は講師を派遣できているが、浸透率がまだ十分とはいえないので、離島などにも行けるようにしたい。小中高の他、専門学校からも依頼をいただくこともある。

8. 藤間 勝子先生(国立がん研究センター中央病院)のアピアランスケア研修会について

資料 8 に基づき、増田委員より研修会について案内があった。定員が 50 名だが、申し込みが定員を超えるようなら、病院と職種のバランスを見て事務局で参加者を選定する予定である。患者さん自身が元の生活をできるだけ維持できるよう支えになるようなカウンセリングがとても大切で、研修会を受けた医療者と受けていない医療者では、認識に隔たりがあるので、ぜひ受講していただければとのことだった。

9. アピアランス支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

10. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における市町村の参加状況について

資料 9-1 と資料 9-2 に基づき、古波津委員より報告があった。令和 7 年 11 月 1 日時点で、「アピアランス支援事業」は 24 市町村、「若年がん患者在宅療養生活支援事業」は 7 市町村が参加している。

11. その他

特になし。

《協議事項》

1. 各市町村に対する「若年がん患者等支援事業」への参加の働きかけについて

資料 10 に基づき、増田委員より提案があった。非常に優れた事業で、連携協議会でも評価されている内容となっている。今年 6 月に、連携協議会議長名(琉球大学病院長名)で各市町村に事業への参加を促す文書を送付してみたが、反応があまりないようだった。県内における AYA 世代の死亡数を見ると、市町村の財政を圧迫するような金額にはならないと思うので、この部会に参加している委員の皆様から地元の市町村に働きかけをしたり、主治医から患者さんやご家族に、こういう制度があることをご紹介いただけないかと協力依頼があった。

2. 第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会版)の中間評価について

当日資料(資料 11)に基づき、増田委員より説明があった。この部会では、「個別のがん対策」の「小児がん」と「AYA 世代のがん」をカバーする。全国がん登録の分析を東大の公衆衛生学講座と連携して進め、今月はじめて 2 次医療圏ごとの分析結果が出たので、小児と AYA も進めていきたいとのことだった。当日資料の指標と沖縄県の状況に関する読み合わせが行われた。数値を青文字で示しているのは、全国よりも悪いところである。

(増田委員)医療の中で、専門家が少なくて困っているということはあるか。

(浜田委員)指定病院としての要件は満たしており、特に少ないとは思っていない。

(屋宜委員)特にない。

(増田委員)血液の分野ではどうか。

(北村委員)成人の場合は少なくて困っている現状にある。すぐに集約化となると難しいかもしれない。ダブル主治医制で一般内科でも対応できるような体制を整えていきつつ、毎年、専門医を増やしていけるよう、研修医の指導も重点的に行っている。

個別のがん対策

中間アウトカム 3-1

指標 小児がん患者の初診から琉球大学病院または県立こども医療センターを紹介受診した日数 については、かなり短期間で、ほぼ例外なく紹介できているので、他の指標を立てたい。

その他、増田委員より、医師の QOL の改善について好事例の施設について紹介があり、学会レベルでも検討が行われているとのことだった。

3. 講演会の後援について

報告事項 7 と同様、こちらの審議事項も順番を変更して会議冒頭で提案があった。資料 12 に基づき、徳元委員より令和 8 年 2 月 28 日(土)に開催される「仕事と治療の両立支援」がテーマの講演会の後援依頼があり、承認された。

4. 次回開催について

今回は、3 月開催予定。事務局より日程調整アンケートを行う。

3. その他

特になし。

以上